

委員会視察記録

委員会名	危機管理くらし環境委員会			
期 間	令和7年7月22日～23日			
参加者	委員長 伊丹 雅治	副委員長 鈴木唯記子	委員 天野 一	委員 小長井由雄
	副委員長 望月香世子	委員 和田 篤夫	委員 江間 治人	委員 牧野 正史
	委員 江間 治人	委員 小長井由雄	委員 塚本 大	
視察先	1 環境衛生科学研究所（藤枝市） 2 静岡地方気象台（静岡市駿河区） 3 静岡大学防災総合センター（静岡市駿河区） 4 三島市清掃センター（三島市） 5 陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）			

視察の概要

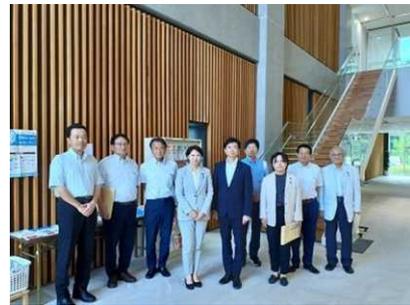
7月22日（火）

■ 環境衛生科学研究所

<概要>

環境衛生科学研究所は、令和2年度に藤枝市内に移転し、県内の環境保全と保健衛生に関する科学的・技術的な中核機関としての役割を担っている。

また、環境科学部、微生物部、医薬品食品部、大気水質部の4部が設置され、県内環境と県民の健康を守ることをミッションに、大気・水質・騒音等の常時監視、病原微生物、医薬品・食品、毒物劇物等の試験検査、消費生活に係る商品テストを実施している。



<主な質疑応答>

Q 鳥インフルエンザ等への感染が疑われる場合のウイルス検査の流れは。

A 病院等から保健所に情報が寄せられ、保健所経由で当研究所に検査依頼がある。

Q 未知のウイルス発生時の対応について、国または民間主導などのルールは。

A ケース・バイ・ケースである。

コロナウイルスの発生当初は、まだ検査方法が確立していなかったため、国主導で検査方法が確立した後、各都道府県の地方衛生研究所が対応を進めた。

■ 静岡地方気象台

<概要>

静岡地方気象台では、県内の気象、地震、火山などの自然現象を監視するとともに、日常の天気予報や台風、暴風、大雨などの警報・注意報、津波警報・注意報、地震火山に関する情報を適時、適切に県民及び防災機関に提供する役割を担っている。



<主な質疑応答>

Q 津波警報及び火山警報について、気象台

として住民への周知はどのような取組を行っているか。

A 各警報レベルに応じた取るべき行動について、住民の理解度としては、まだ十分に浸透しているとは言えない状況であるため、自治体と連携し、チームとして啓発活動に務めるとともに、報道機関に対して勉強会を行っている。

Q 気象観測所における4要素観測所と3要素観測所との違いは。

A 4要素観測所では降水量、気温、風向・風速、湿度を観測し、3要素観測所では降水量、気温、風向・風速を観測する。

Q 牧之原気象レーダー観測所は、どのような状況時に観測データを用いるのか。

A 牧之原気象レーダー観測所以外に、静岡地方気象台の管外にも同様の観測所が設置されており、それらと一緒に用いることで雨雲を捉え、線状降水帯の発生などの気象状況を観測している。

■ 静岡大学防災総合センター

<概要>

平成20年度に設置された静岡大学防災総合センターは、防災科学研究及び防災教育を総合的に展開するとともに、地域社会と連携し、地域の防災体制及び危機管理能力の向上に資する「地域志向大学」を目指して様々な活動に取り組んでいる。



<主な質疑応答>

Q 県内の防災対策上の主な問題点は。

A 大規模地震対策特別措置法の制定からほぼ50年が経過し、静岡県は他県に先駆けて防災インフラの老朽化が懸念される。

また、静岡県は地震・津波に対する防災力はあるが、水害や土砂災害、盛土の崩落など、新しいジャンルの災害に対して、ハード・ソフト面ともに弱い可能性がある。

7月23日(水)

■ 三島市清掃センター

<概要>

三島市では、ごみの減量に向け、フリマアプリのメルカリを活用したオンラインショップ「メルカリShops」による粗大ごみのリサイクル販売に取り組んでおり、昨年のメルカリShopsにおける販売数、販売額等の4部門で自治体日本一となった。

また、食品ロスを削減するため、賞味・消費期限が近い商品を売り切りたい店側と低廉な価格で購入したいユーザーをつなぐフードシェアサービス「みしまタベスケ」を県内で初めて試験的に導入した。



<主な質疑応答>

Q メルカリShopsで事業ごみのリサイクル販売を行わない理由は。

A 収納倉庫のスペースに限界があり、大型品のリサイクルは行っていない。

Q タベスケだけではなく、TABETE（タベテ）は検討したか。

A 検討した。タベスケは、自治体向けでデータの提供が迅速であり、またユーザー側のメリットとして、支払い手段が比較的豊富であり、利便性が高い。

Q 直近10年でごみの総量を3割削減できた要因は。

A ごみの総量が平成19年度をピークに減少傾向となる中、平成28年度から清掃センターへの持込有料化やごみ減量アドバイザー制度を導入するなど、様々な取組による成果と捉えている。

■ 陸上自衛隊板妻駐屯地

<概要>

板妻駐屯地を拠点とする陸上自衛隊第1師団第34普通科連隊は、防衛任務のほか、県内への災害派遣を担っており、災害発生時の各自治体等、関係機関との連携を高めるため、県内各自治体との防災訓練などに積極的に参加している。



<主な質疑応答>

Q 板妻駐屯地内に設置されている県防災倉庫の防災資機材は、静岡県から陸上自衛隊が預かっているのか。

A そのとおり。

県危機管理部が所有する防災資機材を板妻駐屯地内で預かっている。

Q 県防災倉庫の管理は。

A 県防災倉庫の防災資機材は、陸上自衛隊が月1回の点検を行っており、また、県危機管理部も年1回の点検を行っている。

Q 林野火災への対応は。

A 林野火災には空中消火が最も効果的な措置だが、ヘリコプターなどの航空機は飛行隊に配備されているため、地上部隊の任務としては、被災者の避難、誘導が中心であり、また、延焼防止のため、周辺の木を伐採し運搬する。